

## 第2章

# ちば・まち・ビジョンの目標

都市計画法第6条の2の規定に基づく「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」

都市計画法第18条の2の規定に基づく「都市計画マスタープラン」

都市再生特別措置法第81条の規定に基づく「立地適正化計画」

---

本章では、序章の都市デザインの実践や第1章の本市の都市づくりとまちづくりの課題を踏まえ、本ビジョンの目標を示します。

第1節 ちば・まち・ビジョンの目標

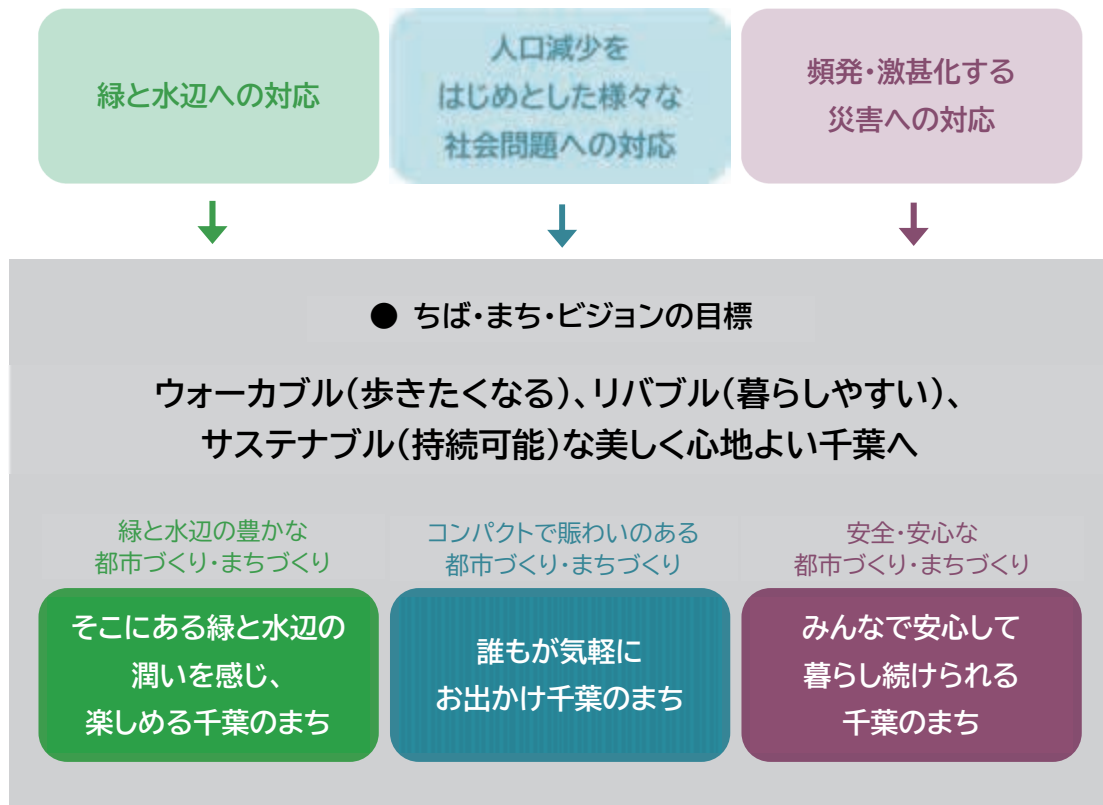
第2節 千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク

## 2 / 第1節 ちば・まち・ビジョンの目標

本市における都市づくり・まちづくりの目標を定めるにあたっては、都市デザインの「理念」や「5つの目標」、第1章で整理した都市の現状や都市づくり・まちづくりの課題を踏まえ、ちば・まち・ビジョンの目標を『ウォーカブル(歩きたくなる)、リバブル(暮らしやすい)、サステナブル(持続可能)な美しく心地よい千葉へ』とします。

また、都市づくり・まちづくりの目標を「緑と水辺の豊かな都市づくり・まちづくり」、「コンパクトで賑わいのある都市づくり・まちづくり」、「安全・安心な都市づくり・まちづくり」の3つの視点から定めます。

### ● 都市づくり・まちづくりの課題



「緑と水辺の豊かな都市づくり・まちづくり」については、「そこにある緑と水辺の潤いを感じ、楽しめる千葉のまち」を目標とし、本市ならではの豊かな緑と水辺の保全・創出、活用を進め、緑や水辺が身近に感じられ、人と自然が共存する持続可能な潤いのある都市づくり・まちづくりを目指します。

「コンパクトで賑わいのある都市づくり・まちづくり」については、「誰もが気軽にお出かけ千葉のまち」を目標とし、居住や都市機能の緩やかな集約や、公共交通の利便性の維持・向上を推進することで、本市に暮らす全ての人が生活利便性や暮らしやすさを実感できる都市づくり・まちづくりを目指します。

「安全・安心な都市づくり・まちづくり」については、「みんなで安心して暮らし続けられる千葉のまち」を目標とし、頻発・激甚化する災害への対応や、都市空間のユニバーサルデザイン<sup>17</sup>化の促進、及び地域防犯や交通安全対策の推進を進め、誰もが安全・安心に暮らせる都市づくり・まちづくりを目指します。

<sup>17</sup> ユニバーサルデザイン:障害の有無、年齢、性別、国籍などに関わらず、できる限り全ての人が利用しやすいように、利用者本位、人間本位の考え方に立って快適な環境をデザインすること。

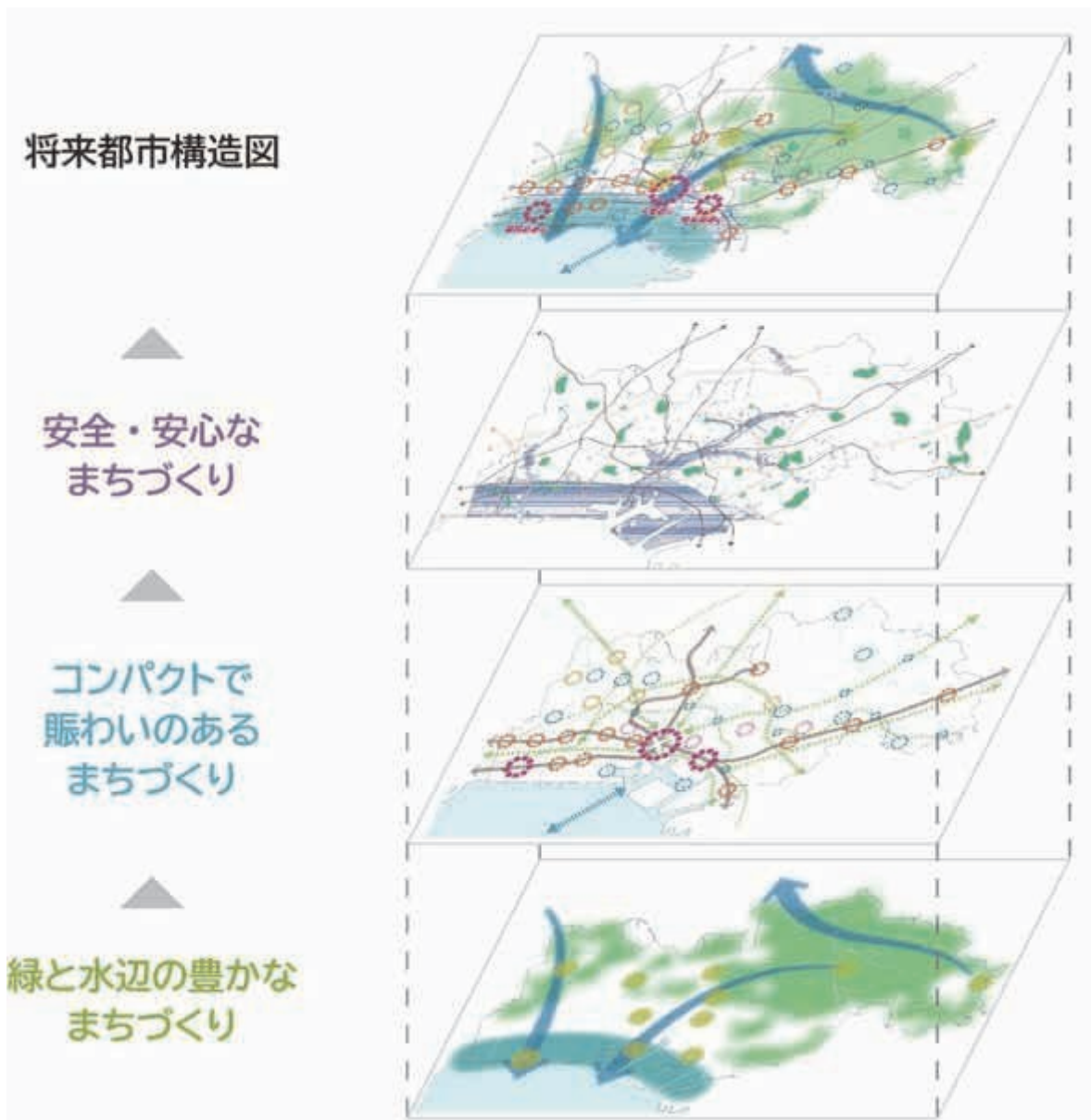
## 2 第2節 千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク

第1節で掲げたちば・まち・ビジョンの目標及び3つの視点の都市づくり・まちづくりの目標に対応した目指すべき将来都市構造を示し、各目標に対応した将来都市構造を重ね合わせることで、本市が目指す将来都市構造「千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク」を形作ります。

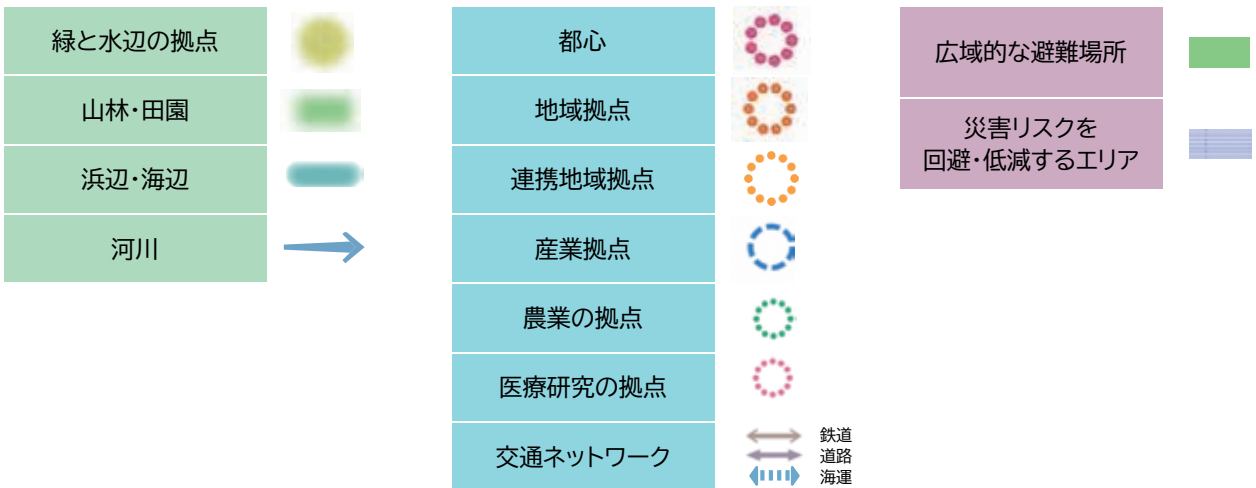
「千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク」は、本市の礎である豊かな緑と水辺と共生しつつ、多様な経済活動や人々の暮らしが地域にあった生活サービス機能や最適化された公共交通サービスなどに支えられ活発に営まれることで、人口減少や少子高齢化が進行しても安心して暮らし続けられる将来都市構造です。

都市機能が充実した都心や拠点、周辺の市街地、郊外にあっても、地域固有の緑と水辺の豊かさを享受でき、日常生活の利便性や暮らしやすさが実感できる都市空間の形成とともに、災害リスクが想定される地域では、防災・減災対策をより強化し、誰もが安心して暮らし続けられる環境の形成を図ります。

これらの都市づくり・まちづくりを推進することで、「千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク」を実現させていきます。

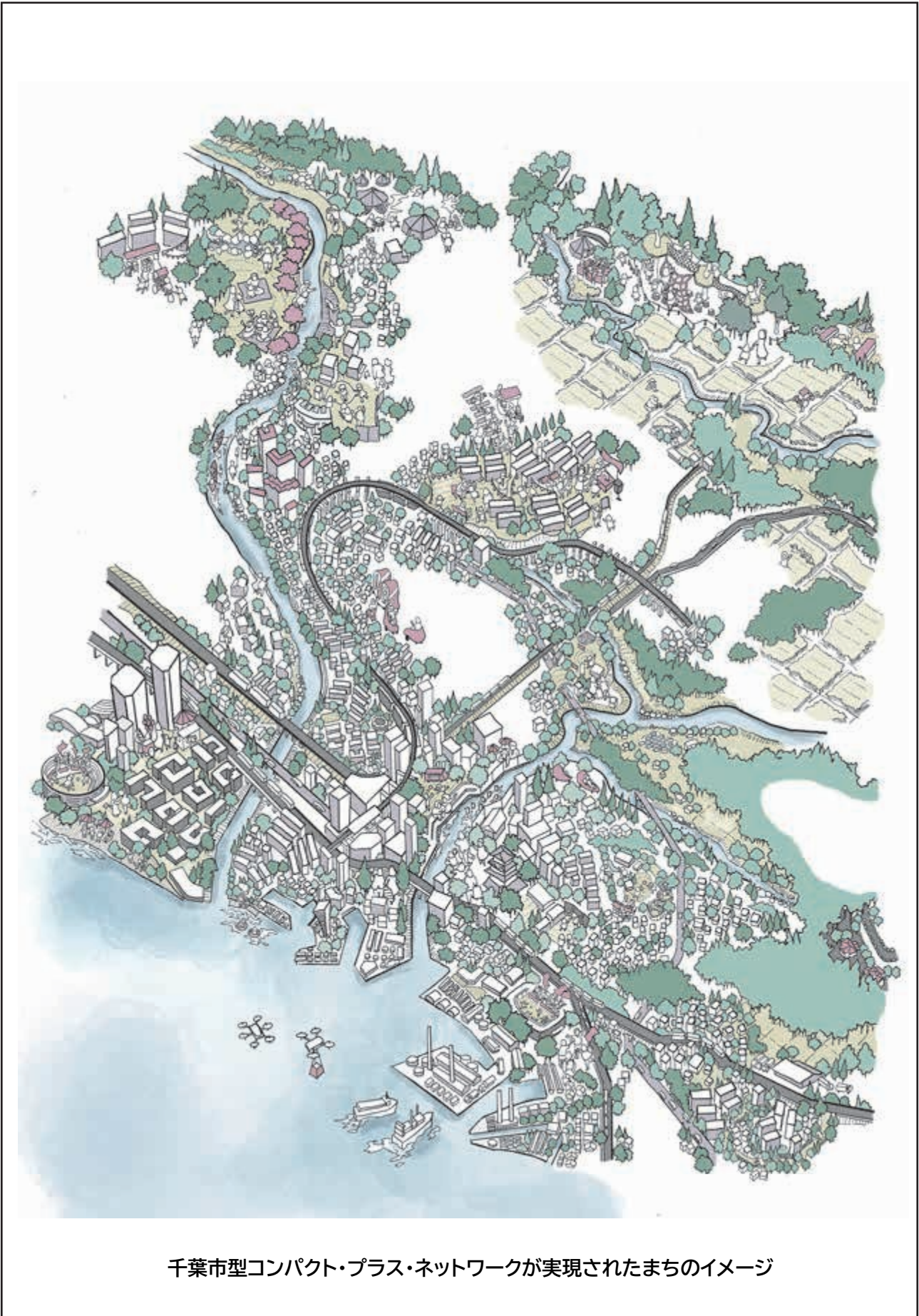


目指すべき将来都市構造図 千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク



## 千葉市型コンパクト・プラス・ネットワークが実現されたまちの姿

- 下総台地に広がる山林・田園や川辺、また東京湾の遠浅の浜辺・海辺では身近に自然とふれあい、大規模な公園ではレクリエーションなどにより人々が交流しています。
- 市域内をはじめとする産業の活動が高度な次元で相互に連携し、基幹的な道路や鉄道、海運などにより強固な交通網が構築され、東京圏域内外の産業エリアがつながっています。
- 首都圏の主要な拠点都市として、都心が経済・産業、コンベンションなどの中枢的な役割を担う一方で、公共交通沿線や生活拠点の周辺などへ居住や都市機能の立地が緩やかに進んでいます。
- 生活拠点では日常生活に必要な施設が身近にあるなど生活機能が確保され、歩いて暮らすことのできる居心地のよい生活圏を形成し、空間の質や魅力の高いまちとなっています。
- 生活拠点が公共交通や次世代の交通サービスでつながり、拠点間を円滑に移動できるとともに、通信技術の導入を多くの産業や社会生活に取り入れ、地域の特性に応じた多様な働き方や住まい方を支える環境が確立しています。
- 豊かな自然が広がる郊外部では、それぞれの特性を活かしながら多様なライフスタイルを選択することができ、郊外部を含む全市域で、災害など様々なリスクに対応し、安全で安心して暮らし続けられる良好な環境が整っています。
- このような都市構造＝「千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク」が実現した姿を、本市の独自の資源を想起する言葉を紡いで『下総台地の緑風、東京湾の浜辺、人々が行き交う“ちば”に住まう』と表現し、多様な主体がこのイメージを共有することで、市民が強い誇りと愛着を持ち、そして自らもまちづくりに積極的に参加する、そうした魅力あるまちを創っていきます。



千葉市型コンパクト・プラス・ネットワークが実現されたまちのイメージ

## そこにある緑と水辺の潤いを感じ、 楽しめる千葉のまち

- 谷津田、田畑、山林など、内陸部の河川沿いを中心とした豊かな緑と、東京湾に面した遠浅の浜辺や港などの海辺について、それぞれの特性に応じた保全と活用を図り、緑や水辺を身近に感じられるまちを目指します。
- 河川沿い空間の利活用を促進し、河川とまちがより密接につながることで、新たな賑わいや活力が生まれるまちを目指します。
- 公園を人と人・人と自然の交流を促進する「緑のランドマーク」として位置付け、市域全体で身近に自然とふれあうことができる、人と自然が共生する持続可能な潤いのあるまちを目指します。また、公園を活用することで、地域コミュニティの活性化や新たな取組みが生まれるまちを目指します。





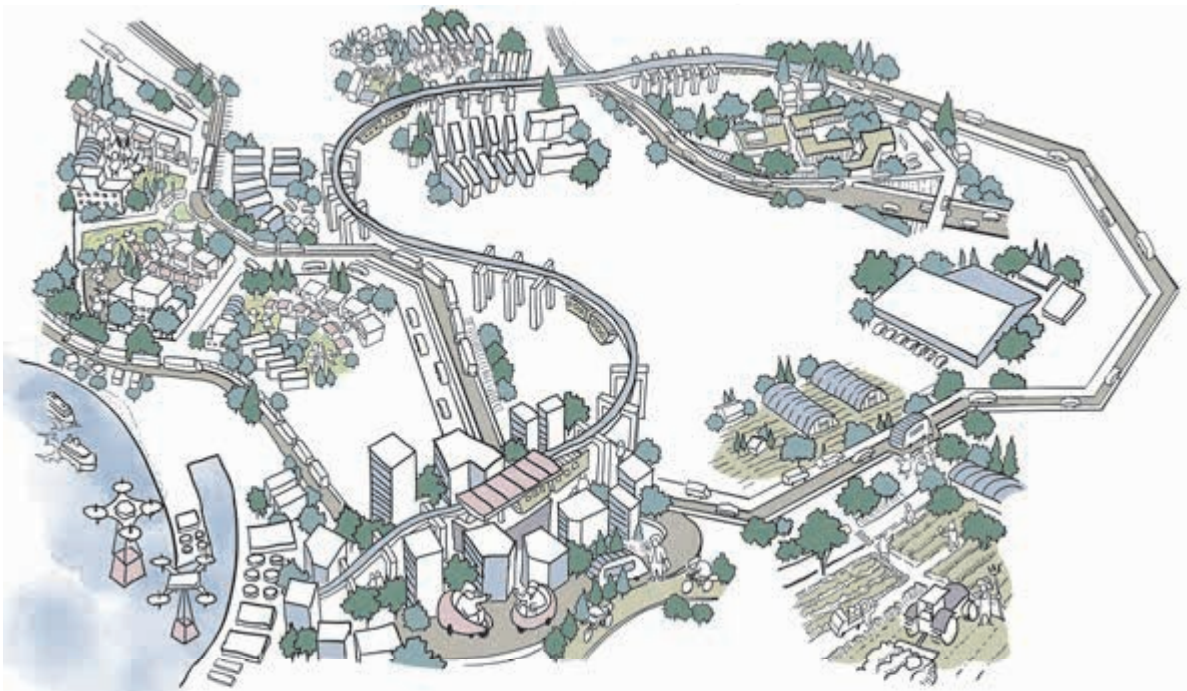
緑と水辺の豊かな都市の目指すべき将来都市構造図



	凡例	将来像
緑と水辺の拠点		本市の緑と水辺の都市づくり・まちづくりの象徴として、緑と水辺を保全・活用する拠点(すごしたくなる緑と水辺の11拠点)
山林・田園		内陸部では優良な農地や山林などの自然環境を保全し、市民が自然とふれあうことのできるエリア
海辺・浜辺		海辺の立地を活かしたレクリエーション空間を創出するとともに、市街地においても海辺との一体性を感じられる、海と緑が交じりあうエリア
河川・川辺		軸となる河川に沿って残る農地、谷津田・山林などの緑とともに、水辺の保全・活用を図るエリア


## 誰もが気軽ににお出かけ千葉のまち






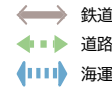
- 雇用の場があり、高齢者、子育て世代、障害者、外国人など、本市に暮らす全ての人が、日常生活の利便性や暮らしやすさを実感する「誰もが気軽にお出かけしやすいまち」を目指します。
- 公共交通沿線などの一定のエリアへの居住や都市機能の誘導を緩やかに促し、将来人口が減少したときにおいても、公共交通、生活サービス機能(医療・福祉・子育て支援・商業など)や地域のコミュニティが持続的に維持されるまちを目指します。
- 緑の多い郊外部においても既存の生活環境を維持し、農地や緑地と共存した生活などの多様な住まい方や働き方を選択できるまちを目指します。
- 公共交通の利便性を高めるとともに、バリアフリー化を推進し、公共交通へのアクセス性を高め、便利で安全かつ安心して公共交通が使い続けられる環境の実現を目指します。
- 農地や緑地と共存した生活など、多様な住まい方や働き方を選択できるまちを目指します。
- テクノロジーなどを活用したスマートシティへの転換を図り、利便性や効率性の向上、地域課題の解決などの実現を目指します。



コンパクトで賑わいある都市の目指すべき将来都市構造図



	凡例	将来像
<p>都心</p> 		<p>高次都市機能や広域交通機能の集積を活かしながら経済、産業、コンベンションなどの広域的・中枢的な役割を担う地域</p> <p><b>【千葉都心】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 県都の都心にふさわしい広域的な商業・業務機能や文化機能などの集積を進める</li> <li>● 適切な居住機能の誘導を図り、多様な人々が集まる魅力と活力ある拠点の形成を目指す</li> </ul> <p><b>【幕張新都心】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 商業機能、国際交流機能、国際的業務機能、研究開発機能、文教機能、スポーツ・レクリエーション機能などの複合的な都市機能の集積を進め、魅力的で快適な居住環境の創出を図り、国際交流都市としての拠点の形成を目指す</li> </ul> <p><b>【蘇我副都心】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 商業・業務機能などの集積やスポーツ・レクリエーション機能の充実、広域的な防災機能の強化を進める</li> <li>● 賑わいと魅力ある海に開かれた拠点の形成を目指す</li> </ul>

地域拠点		<p>将来にわたり市民生活に必要な幅広いサービスの提供を受けられるよう、公共交通の利便性や生活利便性などの拠点機能の向上を図る地域</p> <p>【具体的な拠点の位置】</p> <p>西千葉、稲毛、新検見川、幕張、幕張本郷、稲毛海岸、検見川浜、都賀、鎌取、誉田、土気、浜野、千城台</p>
連携地域拠点		<p>生活サービス機能の集積を進め、鉄道駅周辺の拠点にアクセスしなくとも日常生活サービスを楽しむことができる拠点の形成を図る地域</p> <p>【具体的な拠点の位置】</p> <p>大宮台団地、こてはし台団地、花見川団地、あやめ台団地、さつきが丘団地</p>
産業拠点		<p>製造業を中心とする産業集積地や、IC 周辺などの道路交通の利便性が高い地域などにおいて産業立地を誘導する地区で、操業環境の維持・向上や新たな産業地形成の促進を図る地域</p> <p>【具体的な拠点の位置】</p> <p>新港地区、蘇我特定地区、千種・こてはし地区、長沼・六方地区、ちばリサーチパーク、千葉土気緑の森工業団地、インターチェンジ周辺</p>
農業の拠点		<p>他産業との連携や先端技術を活用し、新事業の創出等を図る拠点</p> <p>【具体的な拠点の位置】</p> <p>農政センター付近</p>
医療研究の拠点		<p>医療研究機関等の集積を活かし、他産業との連携や先端技術を導入することで、新事業等の創出等を図る地域</p> <p>【具体的な拠点の位置】</p> <p>千葉大学医学部、量子科学技術研究開発機構、千葉県がんセンター、千葉県こども病院など</p>
交通ネットワーク		<p>道路や鉄軌道、海路などの交通網により、市内外、広域的な人々の移動やモノの流れを支える軸</p>

安全・安心な都市づくり・まちづくりの目標

## みんなで安心して暮らし続けられる 千葉のまち

- 気候変動や災害などにも強くしなやかに対応でき、安全で安心な暮らしを支えるまちを目指します。
- 地震や風水害などの災害に強い都市づくり・まちづくりをハード、ソフトの両面から推進し、これらのリスクを回避・低減したまちを目指します。
- 社会のバリアフリー化や地域の支え合い、地域防犯や交通安全対策により、誰もが安心して生活できるまちを目指します。

災害時



平常時



安全・安心な都市の目指すべき将来都市構造図



	凡例	将来像
広域的な避難場所		大規模な火災が発生したときに安全を確保するオープンスペースや公園などを維持・保全する場所
災害リスクを回避・低減するエリア		水災害・土砂災害に対するリスクをできる限り回避、あるいは低減するため、必要な防災・減災対策をしながら都市づくり・まちづくりを進めるエリア
緊急時の避難・救助・物資供給網	1次路線 2次路線	大規模災害が起きた場合の避難・救助や物資の供給、諸施設の復旧など、非常事態に対応した交通網の確保を図る軸 (緊急輸送道路)

## 参考

## 集約型都市構造

全国的に人口減少・少子高齢化が進展する中で、全市一律に人口密度が低くなった場合、公共交通や商業、福祉、子育て施設などを利用し支えていた方々がその周りに居住しなくなってしまうため、公共交通サービス水準が低下したり、生活利便施設が撤退したりしてしまうおそれがあります。

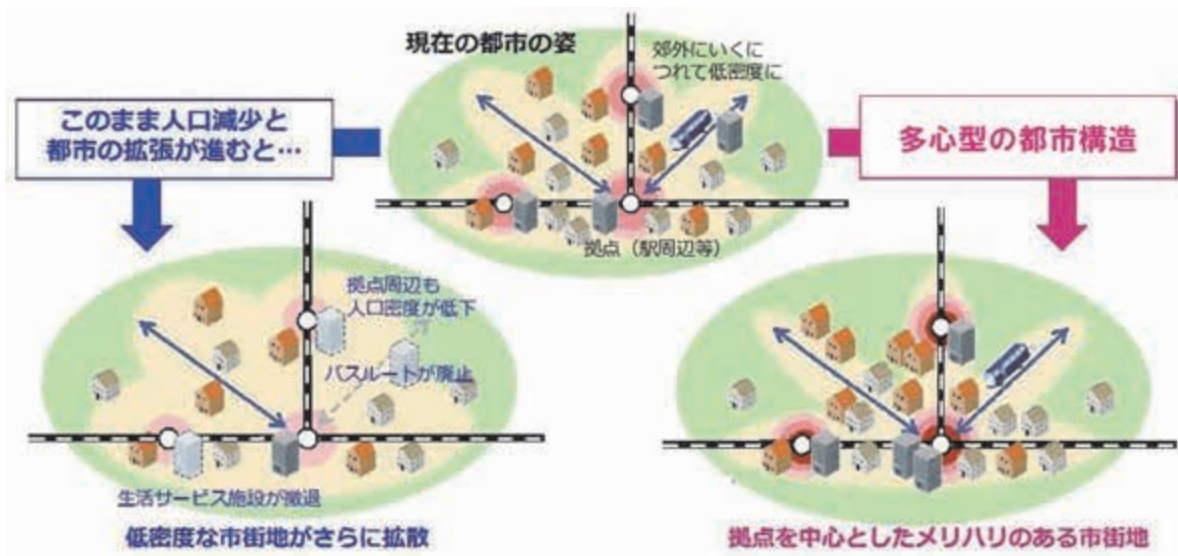
しかしながら、人口が減少しても、それぞれの場所ではそれぞれの市民生活があるため、市街地そのものを直ちに縮小することは困難です。



## 人口減少と都市の拡張により起こりうる問題

人口減少・少子高齢社会にあっても、将来にわたって持続可能なまちを実現するためには、これまでの拡散型の都市構造から、公共交通や生活利便施設の周辺の人口密度を維持していくことにより、集約型都市構造への再編が必要です。

## 集約型都市構造への再編イメージ



## 集約型都市構造をめぐる誤解

本市が目指すのは、ひとつの都心部に都市機能が集中する一極集中型のまちではなく、住宅や商業・福祉などの機能が集積し、公共交通のアクセスが充実した複数の「機能を集約する拠点」が、適切な機能分担のもとに連携し、公共交通で結ばれた多心型の都市構造です。

